

ドイモイ下のベトナム南部における高齢者福祉施策の現状と展望

— 高齢者を支える地域資源のシステム化をめざして —

Situations and prospects of the elderly welfare programme in southern Vietnam under Doimoi reform

— Toward systematization of community resources in support of senior citizens —

Ma Cam Long Ha

研究の目的と方法

本論文の目的は、ベトナムにおける高齢者及び介護家族の現状を分析し、高齢者を支える地域社会の可能性を南部の事例分析を通して見出したものである。高齢者介護福祉問題の将来に向けて、二つ課題を提示するところから出発した。第一は、地域資源を活用することによって高齢者及び家族へのサポートシステムを構築すること。第二は、高齢者の自立や社会参加、および主体的な選択権をそのシステムに取り込むことである。課題に迫るために、ベトナム南部のホーチミン市とベンチェ省で、高年者の会、役所、病院、老人施設、寺院等を訪ね、ボランティアや高齢者への面接調査や、高齢者を介護する家族への訪問、インタビュー等を行い、地域資源のシステム化の可能性を明らかにしようとしたものである。

ベトナムの高齢者福祉政策は、家族の役割を基調として展開されてきたが、核家族化の進行により従来の伝統的な家族介護の形態は徐々に崩れがちである。高齢者の介護は女性の伝統的な役割とされているが、家計を支えるために男性とともに働く女性は、仕事や家事、子育て、介護等の負担が大きく、すべての役割を果たせなくなっている。それ故に、家族関係が崩壊の危機に直面することになり、伝統的家族型の介護・扶養が限界となっている。高齢者を支える家族の福祉機能が低下すれば、政府が福祉サービス提供の責任を担うということになる。しかし、経済成長を追求することにより引き起こされた所得格差や、都市・農村の格差、地域格差などが拡大している。財政・人材難の地方では福祉サービスを十分に提供できない実状がある。また、国家的社会保障システムはまだ法的枠組みを整われている段階であり、福祉サービスはまだ充実していない。そこで、地域・コミュニティの相互扶助的機能が、公的福祉サービスを補完する役割として必要となる。

現在、老齢を迎えたベトナムの高齢者は、植民地時代に生まれ、戦争の混乱を経験し、変化が多い時代の中を生き抜いてきた。戦争の被害、障害、損失を被った。国の独立のために戦った。戦後は、経済発展のために貢献してきた。この経過の中で、結婚できなかった、あるいは家族を失った孤独な高齢者は少なくない。その犠牲や欠損を補う責任は国家並びに社会全体にある。

老いても健康に生きることは誰もが希望するが、それだけでなく、自分自身の存在意義を表現することも大切である。高齢者が社会の不可欠な構成員として、社会的役割を果たし、生きがいのある生活を送ることが望まれる。そのために、高齢者の蓄積した経験や知恵を評価し、活用し、高齢者自身の主体性として社会参加を促進することが、これからの高齢者福祉を支える重要な点となる。

論文の構成

序論

- 第1節 研究の背景
- 第2節 研究の課題
- 第3節 研究の目的と方法
- 第4節 論文の構成

第1章 ベトナムの経済成長と社会変化

- 第1節 ベトナムの国家と社会
- 第2節 伝統的な共同体とコミュニティ
- 第3節 ドイモイ政策
- 第4節 経済改革 20年間の成果 1986年～2007年
- 第5節 社会の変化

第2章 伝統的な家族の役割と高齢化社会の課題

- 第1節 高齢者をめぐる伝統的な道徳・思想
- 第2節 家族構成の変化、家族福祉の現状
- 第3節 高齢化社会の特徴
- 第4節 高齢者の特徴

第3章 高齢者に関する社会福祉制度・政策とその課題

- 第1節 高齢者に関する制度・政策
- 第2節 多様な介護福祉サービスモデル
- 第3節 高齢者に関する制度・政策にみられる諸課題

第4章 都市部における高齢者福祉：ホーチミン市の事例

- 第1節 対象地域の概要
- 第2節 調査の方法
- 第3節 調査結果の分析：サービス対象者の実態
- 第4節 調査結果の分析：地域のサービス資源

第5章 農村部における高齢者福祉：ベンチェ省の事例

- 第1節 対象地域の概要
- 第2節 調査の方法
- 第3節 ボランティア参加型高齢者福祉の実験結果
- 第4節 考察：高齢者福祉を支えるシステムと地域資源

第6章 南部における高齢者福祉をささえる地域資源のシステム化

- 第1節 高年者の会
- 第2節 ボランティア・社会運動
- 第3節 高齢者の社会参加・社会関係の形成
- 第4節 介護のための人的資源
- 第5節 施設の課題
- 第6節 在宅福祉サービスの可能性
- 第7節 地域・コミュニティのサポートシステムの再構築

結論

論文概要

1986年に開催された第6回ベトナム共産党大会は、市場経済システムの導入と対外開放化を柱とした「ドイモイ」路線を採択された。本論文は、ドイモイにより引き起こされたベトナムの社会変化と、伝統的家族介護福祉に対するその影響を分析し、ベトナムの高齢者に関する社会福祉制度・政策、とその地方実施との間のギャップ、公的社会サービスの質的格差、負担の在り方の諸課題を明らかにするものである。現地調査を基に、高齢者福祉の現状を把握し、高齢者を支える家族と地域と行政、それぞれの役割と地域の可能性を再確認し、地域資源を活用することによって高齢者福祉への支えるシステムを構築する可能性を検討するものである。

序論では本論文の背景・課題・目的と方法を説明した後、第1章では、ベトナムの経済成長と社会変化について述べている。ベトナムの「国家」と「社会」という用語や概念を説明し、国家レベルの政策に対する社会レベルの認識や実態との乖離、国家と社会の関係を分析した。ベトナムでは、国家の統治システムが存在し、機能している。国民の生活・福祉を重視し、関心が高い。その上で、国家政策を受け入れる社会組織が存在し、国民は政府の施策・宣伝などを呼応し、福祉活動や社会運動などに対して積極的に行動し変革する基盤があることを、資料研究と統計データに基づいて分析して明らかにした。また、住民が直接に接する地方政府と、共同体自治やコミュニティの構成と役割分担を歴史的踏まえ、把握し、地域社会に根強く既存している伝統的協同体の相互扶助や助け合い機能を高齢者への支える重要な地域資源として再確認した。

ドイモイの成果とそのもたらした社会変化を統計データに基づいて分析し、国民生活の質が向上され、市場経済に応ずる社会保障システムはしばしば改善され整ってきたことを明らかにした。一方、工業化・都市化が進んでいる経過の中、格差と不平等が広がっている。南北の格差や、地方間の格差、農村・都市の格差、貧困層と富裕層との間の格差が拡大している。それらは、公的福祉サービス享受の不公平につながった。それらの社会変化を検討し明らかにした。

第2章では、伝統的な家族の役割と高齢化社会の課題について述べた。諺や習慣、伝統文化、社会運動などを通して、高齢者をめぐる「敬老得寿」という伝統的な文化の存在、ベトナム社会に深く根付いている「敬老」の思想を明らかにし、その伝統文化は高齢者を支える地域社会の原動力を認識した。「家族」という概念のベトナム的特質を述べ、家族による福祉の現状、伝統的高齢者福祉、そこにおける家族の役割や地域の機能を調べ、ドイモイ政策による市場経済の浸透で家族がどう変容したかを捉えた。また、統計データ分析を通してベトナムの高齢化社会と高齢者との特徴を明らかにした。其処で高齢者に関わる諸問題、家族による福祉や、家族と社会の中の役割、教育、健康、経済、社会参加等検討した。

第3章では、高齢者に関する社会福祉制度・政策とその課題について整理した。制度・諸サービスの歴史的変化を分析し、「社会的優遇」から福祉サービスの「社会化」への流れ、高齢者法の制定へのあゆみを取り上げ、公的社会サービスの質的格差、負担の在り方等の諸課題を検討した。現在、国内に展開されている多様な介護福祉サービスモデルを分析し、地域ができる福祉サービスを考察し、家族の役割を基調とする福祉政策は、在宅介護・在宅ケアを取り組むことが必要である課題を検討した。

第4章では、ホーチミン市の事例を基に、ベトナム南部の都市部における高齢者福祉について分析し、地域での介護福祉サービスの質の高める可能性を検討した。調査で得られた結果を6点に集約した、①社会変化により家族の福祉機能が低下しつつある現状であるが、それでも

高齢者を支える家族の役割は変わらない、②高齢者及び家族を支えるのは地域・コミュニティの重要な役割、③家族の介護負担を軽減するために、在宅ケア・在宅介護サービスが必要である、④医療保険について国民の意識が徐々に高まっている、⑤高齢者の社会参加を支援することが必要である、⑥社会は老人施設に偏見を持っても高齢者を支える一つの「場」として需要が確かである。

高齢者を支えるのはまず家族であるが、その家族を維持するために地域・コミュニティの力が必要である。地域のサービス資源を検討し、その可能性は十分にありと明らかにした。それらは、①現在にまでも共同体の相互扶助が根強く機能していること、②地域における慈善団体、慈善活動を地域サービス資源として最大限に活用することが重要であること、③高齢者が健康で生きがいをもって楽しく生きられる安住の「場」の環境づくりであること、④今後、高齢者を支える介護の人的資源として、定年退職の医療職業分野を経験した女性たちの活用を重視することが必要であること。それらの地域資源を活用することによって、高齢者を支える地域社会づくりは、十分に可能性がある。

第5章では、ベンチェ省の事例を取り上げ、農村部における高齢者福祉について分析した。地域におけるボランティア参加型の高齢者福祉への参加関係者のインタビューを通して、実験経過を把握し、モデルの妥当性と可能性を検討した。また、ボランティアとの聞き取りを実施し、ボランティアの課題を明らかにし、活動に関する規制・待遇制度いわゆるボランティア活動の法的環境や社会理解が求められると認識した。高齢者自身の反応を考察し、高齢者への支えには、包括的な政策だけでなく、支援環境の整備が必要である。それについて、重視すべき視点は、①伝統的文化を継承地域社会の機能の在り方を認識し、それを最大限に活用させること、②高齢者に社会参加機会を与える環境の整備、であることを提起した。

第6章では、前二章を総括し、ベトナム南部における高齢者福祉を支える地域資源を確認し、それらのシステム化の可能性を、提言として示した。それは、高齢者自身と、高齢者を支える家族、地域、行政はそれぞれ互いの役割や力量の限界を理解し合った上で連帯協力するものである。福祉サービスを提供する担い手は、政府だけではなく、高齢者に最も密着した地域・コミュニティも重要な役割を果たし、政府の欠落部分を補充し、協力した上で高齢者福祉を支えていく。

高齢者の暮らしを支える社会保障制度や公的福祉制度を整備する責任は政府にあるが、地域も重要な役割を担う。ベトナム社会は昔から今日まで高齢者を尊び、「敬老得寿」という伝統的な文化が存在する。共同体の相互扶助がいまだに強く残る地域・コミュニティ、宗教を基礎とする奉仕活動や慈善活動、ボランティア活動、社会運動、また退職して地域に住む専門職・準専門職、そして地域貢献への意欲を持つ高齢者など、これらすべてが、重要な地域資源である。高齢者自身を含む地域の潜在力を最大限に活用し発揮させることで、高齢者及び家族へのサポートシステムを構築する事が可能であることを、本論文は明らかにした。